《資料１：概要》

東日本大震災から２年半のフラガールの故郷を
筑波大学生が取材したドキュメンタリー映画

いわきノート

F U K U S H I M A　V O I C E

2015.3.11　インターネット無料配信スタート !!

http://www.geijutsu.tsukuba.ac.jp/~cr/iwakinote/

■ 紡がれる声で見えてくる被災地

福島県の南部に位置し、福島第一原発から最寄りの都市であるいわき市。かつて炭鉱の賑わいや、映画フラガールで知られる街です。東日本大震災では 446 名が犠牲となり、現在も福島第一原発の周辺町村から２万人以上の避難を受け入れています。（＊2014 年いわき市発表による）

環境変化のストレスや風評被害が住民たちにのしかかる状況の中、2013 年 9 月に「未来会議 in いわき」が開催されていました。それは市内外から職業も年齢も考えも異なる人々が集い、自らの経験や思いを語る場として有志が運営するタウンミーティングです。偶然に出会った人々による対話が無数に発生し、過去から現在そして未来に向けて対話が発展していきます。

カメラはまた、いわき市に暮らす人たちの日常を見つめます。農業や漁業に携わる人、子育て中の母親たち、教師と高校生、僧侶やサーファー、仮設住宅での生活が続く避難者。市井の人びとが語り、その言葉を学生監督たちがひとつずつ受け止めます。

映画は会議の様子を追いながら、人々の語りと市内の情景を織り込んで進行します。そしておよそ５ヶ月が過ぎた 2014 年 1 月に、再び未来会議を訪ねたのでした。

共同監督・撮影　取材：有馬俊　岡崎雅
佐々木楓　三藤紫乃　鈴木絹彩　鈴木ゆり
太智花美咲　千葉美和子　津澤峻　中川慧介
制作：UPLINK　　製作：筑波大学
８６分　　HD　　© 筑波大学 2014

■ FUKUSHIMA VOICE について

筑波大学創造的復興プロジェクトと映画配給会社 UPLINK との合同プログラム。筑波大学からは専攻がまちまちな有志学生が参加、映画製作の専門家の大澤一生（『ドキュメンタリー映画１００万回生きたねこ』プロデューサー）、島田隆一（『ドコニモイケナイ』監督）を迎えた。

2013 年 3 月からの現地リサーチを経て、同年９月にいわき市にて取材合宿を実施。“福島の人たちの声を世界に届ける” を合い言葉にして撮影素材はのべ９０時間にも及んだ。

完成後の 2014 年春から東京・大阪・つくばの劇場３館で上映されたほか、国内外での自主上映およびイベント上映 31 件を実施。2015 年 7 月のドイツ・ボン大学有志による上映では、コンセプトに賛同した同大学で日本語を専攻する学生・教員が翻訳を申し出てドイツ語字幕の制作へと発展した。来る 3 月 11 日にドイツの２都市で上映会が企画されるに至っている。

また震災から５年と節目となる本年 3 月 11 日からは WEB 上での公開を予定している。オフィシャルサイトは 2016 年２月に取材したインタビュー動画を加え、日本語と英語のバイリンガルでリニューアルする。

また、既に英語字幕と日本語字幕を収録した DVD（非売品）を制作済みで、国内外の学校・図書館・美術館等で運用されるよう連携を目指している。他国語字幕の製作も準備中。

■ 問い合わせ　筑波大学 CR プロジェクト室
029-853-2813 (担当：飯田)